



# いづみ

No.34

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

## 自作自選 4



《旅 路》

米坂ヒデノリ

## 自作自選 4 作者の言葉

南フランスの養老院を舞台にした映画「旅路の果て」(1939年)に自らの人生を重ね、老いていくことの意味を自問しつつ、数年前から制作に取り組み、2009年度自由美術協会展に発表。

2010年10月、檜山管内上ノ国町在住の「米坂ヒデノリと愉快的仲間たち」を通じ、同町の特別養護老人ホーム「かみのくに荘」へ寄贈。  
(米坂 ヒデノリ)

タイトル	《旅路》
所蔵	特別養護老人ホーム「かみのくに荘」
制作年	2009年
素材	カツラ
サイズ	高さ 100 <small>センチ</small>

## 連載 宮の森の四季 4 本郷新記念札幌彫刻美術館

### 大阪中之島公園の《緑の賛歌》

学芸員 井上みどり

高さ 430cm、台座を含めると 1,253cm の《緑の賛歌》は、本郷新が制作した野外彫刻の中で最も大きな作品です。石膏原型は彫刻美術館の記念館展示室にあり、記念館を訪れた方が一様に圧倒される大きさです。

これまで《緑の賛歌》の設置場所が大阪の中之島公園と説明しても、大阪の方でさえも知らないと言われる場合が多く、知っている方はほとんどいらっしゃいませんでした。大きさ、設置場所など目立つ作品であるだけに、あまりの認知度の低さを長年疑問に思い、是非じかに見てみたいと思っていました。

このたび大阪に行く機会があり、初めて念願の実物を見ることができました。私は初めての大阪訪問であり、事前に中之島公園の場所を確認していましたが公園のどの場所にあるのかわからず、一抹の不安を感じながら京阪電鉄京阪線「淀屋橋」駅を降りました。しかし、私の不安はすぐに解消しました。改札口を出て最寄りの出口から地上に出るとすぐに《緑の賛歌》が目の前にありました。

片側は川が流れ、道を挟んで明治に建てられた時代を感じさせる府立中之島図書館、中央公会堂の向側にあります。周辺にはベンチが置かれ、市民の憩いの場に相応しい小公園として整備されていました。

作品の第一印象は、想像していたより小さいことでした。室内で見る作品は野外で見るより印象として大きく感じるのは分かっていたつもりでしたが、毎日見ている記念館の石膏原型に比べて本当に 430cm あるのかと感じました。本郷らしい伸びやかに両手を上げた二人の裸婦は、記念館の展示室で見る威圧感はなく、周囲の環境に調和していました。これからは、自信を持って《緑の賛歌》を説明することができるようになりました。皆様も是非、大阪中之島公園で《緑の賛歌》をご覧ください。

## 私が彫刻について語るなら

野坂 政司（北海道大学大学院教授）

私は大学で英文学とりわけ英米現代詩を学び、その後アメリカ文化研究やメディア論を対象を拡げ、現在はマルチメディア表現論、デジタルコンテンツ研究という領域を対象に研究をしています。こうした背景から、私が彫刻について語る資格がないことは明らかですが、この度、良い機会を与えられたことに感謝しながら、彫刻について思うところを記してみたいと思います。

私が記憶している生活感覚の中での彫刻との出会いは少年時代に遡ります。私は小樽に生まれ育ちました。小学校の遠足や中学校の行事などで、スキー場で知られている天狗山に徒歩で登る機会がありました。そこで出会ったのが登山道の傍らに次々に現れてくる五百羅漢でした。インターネットで検索すると宗圓寺の五百羅漢像が出てきますが、天狗山の五百羅漢については、見つかりにくいのが現状です。現在もあるかどうか不明ですが、私の記憶の中では、石から彫られた素朴な羅漢像は、昔日の人々の願いを見守りながら悠久の時を

立ち尽くす仏心の表象です。

このような私の原風景の近景に、立派な仏像群の記憶があります。学生時代から学び始めた少林寺拳法が、戦後の日本において創始された金剛禅総本山少林寺において演練される易筋行として位置づけられている関連で、金剛力士像への思いは特別なものがあります。なかでも興福寺の金剛力士像は、その立ち姿の力強い美しさと、聖域を守護する強烈な意思の気配とが渾然と融け合い、その魅力に惹かれ続けています。

思えば、詩を出発点として、表現やコミュニケーションを考えてきた私にとって、彫刻は、言葉という間接的な媒体に寄らずに、目の前にそのまま存在して直截に訴えてくる対象として独特な位置を占めています。自分の視野に立ち現れるとともに、空間に一つの焦点を生み出しながら、私のからだに共感と共振を引き起こす力を帯びている。彫刻は、私にとってそのような存在です。

友の会主催

## シンポジウム 2010「北の彫刻」開催

### 中島公園の「木下成太郎」像をめぐる野外彫刻の周辺を探る

「彫刻の敵は排気ガス」 黒川弘毅武蔵野美大教授が基調講演

札幌・中島公園にある「木下成太郎像」をテーマに、彫刻美術館友の会が中心となって企画した「シンポジウム2010『北の彫刻』」(友の会主催、大東文化大、武蔵野美術大共催)が10月16日、札幌・パークホテル地下1階パークプラザで催された。友の会が外部団体と協力して行なった本格的なシンポジウムで、会としても初めての試みだったが、会場には200人ほどの彫刻愛好家らが参加し、大成功だった。

シンポジウムは同日午後1時、橋本信夫友の会会長の開会挨拶で始まり、黒川弘毅・武蔵野美術大造形学部彫刻学科教授が「野外に設置されたブロンズ彫刻の保存について」の基調講演を行なった。黒川教授は風雨にさらされて傷んだ各地のブロンズ像の写真を提示しながら、排気ガスなどが原因で都市の彫刻が破損する様子を科学的な分析結果で示すと共に、清掃方法をアドバイスしながら彫刻保全の必要性を訴えた。

ついで、パネラーの亀谷隆・北海学園大非常勤講師が「木下成太郎の事跡」と題して、木下成太郎の業績、経歴などを詳細に説明した。また、坂井文・北大大学院工学研究科准教授は「都市と野外彫刻」のテーマでシカゴ、ロンドンなどの都市

がパブリックアートとして彫刻などを都市開発に組み込んで行く事例を紹介した。さらに、アートナビゲーターの



資格を持つ高橋淑子・友の会会員が「朝倉文夫の芸術」の演題で木下成太郎像の作者である朝倉文夫の彫刻家としての経歴、作品などについて解説すると共にコーディネーターとして総合討論をまとめた。終了後、長峯慰子会員のガイドで公園内の木下成太郎像を鑑賞した。

### シンポジウムを終えて

友の会会長 橋本 信夫

今回のシンポジウム2010「北の彫刻」は中島公園にある「木下成太郎」像の清掃作業の過程で、「木下成太郎ってだれ?」「作者は?」というような彫刻に対する素朴な疑問から自然にわき起こった。作業に参加した周辺住民と友の会と一緒にシンポ開催を発案し、木下が武蔵野美大と大東文化大の創設者であることから両大学の同窓会にも強力な支援を要請し、基調講演に武蔵野美大の黒川弘毅教授(彫刻家)を迎えることができた。

協力者の輪が広がるにつれ、札幌市の登録団体として補助金を受ける道も開け、札幌市の市民まちづくり活動促進助成金の交付を受け、開催に向けての大きな原動力となった。また、中島公園の一住民としての立場から、会場となったパークホテルが多くの面で協力してくれたことも心強かった。結果、名義後援10団体、5社からの協賛につながった。小さな波紋が次第に大きな輪になって湖面に広がり、総勢200人に及ぶ、友の会には大掛かりなシンポジウムを成功させることができたのは大きな成果だった。

## 函館アートツアー



道南の芸術にたっぷりつかる彫刻美術館友の会の函館アートツアーが昨年10月12、13日の一泊二日の日程で行なわれた。一般参加者を含め一行28人は新装なった五稜郭の「箱館奉行所」見学、地元ボランティアの案内による元町界隈のパブリックアートを巡る散策、函館の孤高の画家、「長谷川湊二郎展」（道立函館美術館）鑑賞と充実したアートごままの旅を楽しんだ。ツアーのポイントである長谷川湊二郎展とパブリックアート散策の感想を斎藤ミサヲさんと岩崎恵美子さんに寄せてもらった。

### 2年越しの「猫」ポスター

斎藤ミサヲ（会員）

私はこのたびのツアーで函館美術館を訪れて、長谷川湊二郎の代表作《猫》に再会することがもう一つの楽しみでした。

一昨年の5月、青森、盛岡、仙台の県立美術館を訪ねた時、宮城美術館で洲之内徹コレクションの特別企画展が開催されていて、湊二郎の作品《猫》が展示されていたのでした。



この企画展の宣伝ポスターに《猫》が使われていました。このポスターの猫を目にした瞬間、時間が止まったように感じました。何の変哲も無いように見えたが、安心して、満足そうにしている猫の表情が私にも伝わってきて、しばらくその場を動くことが出来ませんでした。自分も猫になっていくような気がしました。

どうしても、猫のポスターがほしくて、美術館のショップコーナーで探しましたが無く、事務所にも立ち寄って聞いてみましたがありません。仕方なく、諦めて帰ってきました。

ところが今回の函館美術館の宣伝ポスターに同じ《猫》が使われていて、今度はショップで買えました。今は家の壁に張り、毎日、「おはよう」「おやすみ」と声を掛けて楽しんでいきます。

### 函館パブリックアートを見て

岩崎恵美子（会員）

函館の元町公園の小高い丘にある数々の彫刻作品。遠くに水平線を見ながら、何んとも良い海の香りと景色にうっとりしながら、雨にも降られず、アート鑑賞が始まります。

長旅の疲れも無く、日も落ちかけるころ、皆さんと一緒に坂道を下りながら数点の作品を見てまわりました。



函館美術館の二人のボランティアさんの明るく丁寧な味のある解説に耳を傾けながら…。

素敵な花の帽子に優雅なドレスを着て、手には日傘を持ったとても可愛い女の子の像は《ハイカラさん》。作品の前で、少し照れながらも一瞬年を忘れ、ハイカラさんの隣に座ったり、肩を組んだり、一緒に写真を撮りました。

日ごろ、友の会にかかわる活動の中でも、とても得をしたような気分になれる楽しい思い出多い旅の一日でした。

## 初体験！！

### 大通公園で手づくり彫刻クイズラリー

友の会の解説部会では10月9日、大通公園の彫刻を広く一般の人たちにも親しんでもらおうと、初めてのイベントとして「彫刻クイズラリー」を企画実行しました。

対象とした彫刻は、子どもらにも無理のない行動範囲をと考え、大通西2丁目の《花の母子像「愛」》から西9丁目の《ブラックスライドマントラ》まで9体。メンバーが考えて持ち寄ったクイズを、彫刻1体につき2～3問、おまけクイズ「ぼくのお母さんを探して！」など、20問のクイズノートを作成しました。一応、小中学生を対象に問題を考えましたが、難問・珍問・愚問などいろいろな問題が並ぶクイズとなりました。

会員が工夫して作った問題は、「《花の母子像》の子供が手にしている花の名前は何でしょう」「《泉の像》の三人の踊り子のポーズは何のポーズに似ているでしょう」などというもので、彫刻を見れば簡単に回答できるもの(観察力を問う)、碑文の文章の空白部分を答えるもの(碑文に注目)、解説を聞いて答えるもの(解説班本来の出番)、計算力を必要とするもの(換算と比較)等々、多彩な設問ができました。A5判12ページのクイズノートを作り、景品に風船、折り紙セットなどを用意しました。これらラリー参加者への記念品や風船作りなどには会員外から思わぬ協力者も現れて、感激！



当日はあいにく風が強く、寒い一日となり、大通公園の人出自体がとても少なく、クイズラリーに参加してくれたのは、中学生の仲良しグループなど数組。呼びかけても、時間的余裕がないなどと、予想以上に参加者が少なかったのは残念でした。周りにいた幼児らに風船をサービスして、午前の部だけで初めてのラリーを終えました。

「彫刻クイズラリー」自体は好企画と思うので、事前PRの方法や実施方法などを再検討して、また、挑戦しようかと思っています。

(松原 安男)

### バルーン・アートで協力

鈴木 睦子 (一般)

大通公園には、実にすばらしい、優れた多くの野外彫刻作品が設置されています。これらの作品を気持ち良く鑑賞できるよう定期的に、友の会のボランティアで清掃作業が行われていることを初めて知りました。身近にしながら、野外彫刻作品をつい見逃していたことを反省しています。

ラリーは、クイズ形式で行われ、札幌出身の彫刻家本郷新の《泉の像》などを鑑賞しながらクイズに答え、完走者にはバルーンアートや折り紙をプレゼントしました。参加者の皆さんからは思った以上に喜ばれ、多くの笑顔と感動をいただきました。

バルーンアートは、カラフルなゴム風船に空気を入れ、ひねると、色々な夢のある形に仕上がり、とてもワクワクしてきます。わたしは、日頃ボランティアで活動を行っているバルーンアートで、友の会の方たちと活動できた良縁に感謝しています。

有意義な一日でした。ありがとうございました。

## 事務局日誌

▼10月9日＝解説部会が大通公園で初のスタンプラリーを実施▼  
12-13日＝函館アートツアー。28人が参加し、道立函館美術館の「長谷川湊二郎展」などを鑑賞▼  
▼14日＝第6回役員会(エルプラザ)新年会日程決定、彫刻美術館貸し館企画展検討、会報「いずみ」33号編集企画、シンポジウム2010「北の彫刻」実施計画協議▼  
17日＝シンポジウム2010「北の彫刻」を札幌・パークホテルで開催。約200人が参加▼  
▼29日＝道立近代美術館前庭などの彫刻清掃(北海道美術館協力会と共催)▼  
11月10日＝第7回役員会(エルプラザ)2011年新年会の会場をパークホテルに変更、彫刻美術館の貸し館企画展の来年度開催断念を決定、「いずみ」34号の編集企画▼  
12月4日＝リユースパソコン贈呈式▼  
▼9日＝第8回役員会(エルプラザ)友の会ホームページの作成協議、会報34号校正など。

**札幌彫刻美術館友の会**  
**会報「いずみ」No.34**  
2011年1月1日発行  
発行人 橋本 信夫  
編集スタッフ  
斎藤美年子：011-643-7246  
大内 和：011-884-6025  
印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」34号 目次

自作自選 4 《旅路》 米坂ヒデノリ . . .	表紙
作者の言葉 . . . . .	2
宮の森の四季 4 「大阪中之島公園の《緑の讃歌》」 . . .	2
巻頭言「私が彫刻について語るなら」 野坂政司 . . .	3
シンポジウム2010「北の彫刻」開催 . . . . .	4
函館アートツアー . . . . .	5
<b>友の会ニュース</b>	
大通公園で彫刻クイズラリー、友の会に「のぼり」、新年会予告ほか . . . . .	6-7
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

■後期収蔵品展 裸婦の魅力展

会期：開催中 ～3月27日(日)

本郷新の彫刻魅力はやはり裸婦像にある。本郷新らしさが感じられる、健康的で、しなやかな肢体の理想的な女性像の作品。

### 記念館

■本郷新展：開催中～2011年3月27日(日)

釣り人抜海展 1月18日(火)～3月27日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館 札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎011-642-5709

### 編集後記

▼昨年10月、函館アートツアーの旅に同行させてもらった。「長谷川湊二郎展」観覧、元町パブリックアートの見学など、なかなか充実した2日間だった。長谷川があのかの「丹下左膳」の作者、林不忘(本名・長谷川海太郎)ら4兄弟の一人と知り、当時の函館の芸術の奥深さに改めて驚いた。また、元町界隈の散策は古き函館の町並みが各所に残っていて味わい深かった▼10月開催のシンポジウム、まさに、小さな川の流れが大河になるように、ささやかな市民のエネルギーが200人も集める力を発揮したのにも驚いた▼2011年は友の会創設30年の節目の年でもある。新たな飛躍をめざしたい。今年もよろしく。(大内)

## 「祖父の作品紹介ありがとう」

### 山内壮夫のお孫さんから礼状

彫刻家・故山内壮夫の孫で著作権継承者でもある山内昌子さん(川崎市在住)から橋本信夫会長あてに礼状が届いた。

礼状は昨年夏、宇部市の久保田后子市長が札幌を訪れた際、橋本会長ら友の会のメンバーが同市長を中島公園にある山内壮夫の作品を紹介したことを会報「いずみ」33号で読み、「祖父の作品を案内していただき嬉しかった」と言うもの。礼状には「祖父の作品を見に行きたい」「作品を目の前で見、手に触れて鑑賞したい」などと書かれていた。

## 友の会ここにあり！

### 「のぼり」を新調

友の会の行事などの際、友の会をアピールするものがなく、不便だったが、このほど彫刻美術館友の会の名を表示した



「のぼり」が出来上がった。本郷新の《泉の像》の写真をあしらい、緑地に白抜きで会のスローガン「街なかの美を守ろう」と「札幌彫刻美術館友の会」の文字を染め抜い

ている。

今後、彫刻清掃ほか会のさまざまなイベントでこののぼりを掲げて会の存在感を訴える。

### NPO法人から

## リユース(中古)パソコン寄贈 会の活動に強力な援軍

10月に行なったシンポジウム2010「北の彫刻」にあたり、友の会が札幌市の「さぼーとほっと基金登録団体」になったことから、このほど東京のNPO法人「イーパーツ」が募集した「リユースパソコン寄贈事業」に応募、12月4日、エルプラザの目録贈呈式でノートパソコンなど3台の贈呈を受けた。

パソコンはノートパソコン2台、デスクトップ1台で、今後、具体的な使用方法などを決めるが、未経験の会員などにパソコンの初歩的な使い方を覚えてもらい、今後の活動に役立ててもらおうことにしている。

## たくさんの汗を流しました

### 野外彫刻の清掃 昨年も活発



知事公館をバックに安田侃さんの彫刻を清掃しているのは昨年10月29日に行なわれた道立近代美術館の彫刻清掃プログラムの一コマ。

この日は友の会と北海道美術館協力会との共催で美術館前庭の彫刻など7体を手がけた。

昨年はこの日の清掃を含め、真駒内第一公園、宮の森緑地、中島公園、大通公園、月寒公園、羊ヶ丘展望台など延べ12回の彫刻清掃を行い成果を挙げた。

## 2011年友の会新年会

### パークホテル(中島公園)で開催

1月22日(土) 11時から

2011年の彫刻美術館友の会新年会が1月22日(土)午前11時から、札幌・中島公園のパークホテルで開かれる。今年会場がこれまでの「すみれホテル」から変更になった。

新年会に先立ち、午前11時から講演会が行われ、北大大学院情報基盤センターの野坂政司教授(国際コミュニケーション論)が「感じること、知ること」と題して講演する。終了後、新年会に移る。会費は4,000円(一般4,500円)。なお、当日、2011年度の年会費(2,000円)の納入も受け付ける。

## 事務局日誌

▼10月9日＝解説部会が大通公園で初のスタンプラリーを実施▼  
12-13日＝函館アートツアー。28人が参加し、道立函館美術館の「長谷川湊二郎展」などを鑑賞  
▼14日＝第6回役員会(エルプラザ)新年会日程決定、彫刻美術館貸し館企画展検討、会報「いずみ」33号編集企画、シンポジウム2010「北の彫刻」実施計画協議▼  
17日＝シンポジウム2010「北の彫刻」を札幌・パークホテルで開催。約200人が参加▼29日＝道立近代美術館前庭などの彫刻清掃(北海道美術館協力会と共催)▼  
11月10日＝第7回役員会(エルプラザ)2011年新年会の会場をパークホテルに変更、彫刻美術館の貸し館企画展の来年度開催断念を決定、「いずみ」34号の編集企画▼12月4日＝リユースパソコン贈呈式▼9日＝第8回役員会(エルプラザ)友の会ホームページの作成協議、会報34号校正など。

**札幌彫刻美術館友の会**  
**会報「いずみ」No.34**  
2011年1月1日発行  
発行人 橋本 信夫  
編集スタッフ  
斎藤美年子：011-643-7246  
大内 和：011-884-6025  
印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」34号 目次

自作自選 4 《旅路》 米坂ヒデノリ . . .	表紙
作者の言葉 . . . . .	2
宮の森の四季 4 「大阪中之島公園の《緑の讃歌》」 . . .	2
巻頭言「私が彫刻について語るなら」 野坂政司 . . .	3
シンポジウム2010「北の彫刻」開催 . . . . .	4
函館アートツアー . . . . .	5
<b>友の会ニュース</b>	
大通公園で彫刻クイズラリー、友の会に「のぼり」、新年会予告ほか . . . . .	6-7
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

■後期収蔵品展 裸婦の魅力展

会期：開催中 ～3月27日(日)

本郷新の彫刻魅力はやはり裸婦像にある。本郷新らしさが感じられる、健康的で、しなやかな肢体の理想的な女性像の作品。

### 記念館

■本郷新展：開催中～2011年3月27日(日)

釣り人抜海展 1月18日(火)～3月27日(日)

本郷新記念札幌彫刻美術館 札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎011-642-5709

### 編集後記

▼昨年10月、函館アートツアーの旅に同行させてもらった。「長谷川湊二郎展」観覧、元町パブリックアートの見学など、なかなか充実した2日間だった。長谷川があのかの「丹下左膳」の作者、林不忘(本名・長谷川海太郎)ら4兄弟の一人と知り、当時の函館の芸術の奥深さに改めて驚いた。また、元町界隈の散策は古き函館の町並みが各所に残っていて味わい深かった▼10月開催のシンポジウム、まさに、小さな川の流れが大河になるように、ささやかな市民のエネルギーが200人も集める力を発揮したのにも驚いた▼2011年は友の会創設30年の節目の年でもある。新たな飛躍をめざしたい。今年もよろしく。(大内)